

HTML TIPS & TRICKS

第 23 回

誰よりも早く 最新のHTMLを使ってみよう

藤井 幸孝 川田 哲 大内 勇

今月の本誌付録の小冊子は、お待ちかねの「HTML TIPS & TRICKS 58 連発」だ。第1回から先月までのTIPSとパズルから特に役立つものを精選した保存版だ。最近この連載を読み始めたばかりの方も、小冊子を手元に置いてCOOLなページ作りの情報源としてもらいたい。それでは今月もあっと言わせるデザインから高度なスクリプトまでさまざまなTIPSをお届けしよう。



CD-ROM収録先 A Magnavi Ip9901 HtmTips
今月号のTIPSをすべてCD-ROMに収録!

このコーナーを楽しむために

最新のHTMLを使う際に、どうしても避けて通れないのがWWWブラウザの互換性の問題だ。そこでこのコーナーでは、TIPSごとにブラウザの対応状況をアイコンで表している(11月10日現在)。これを参考に使用するWWWブラウザを選んでほしい。



インターネットエクスプローラ3.0以上



インターネットエクスプローラ4.0以上



ネットスケープナビゲーター3.0以上



ネットスケープナビゲーター4.0以上



12月号「HTMLパズルに挑戦しよう」の解答

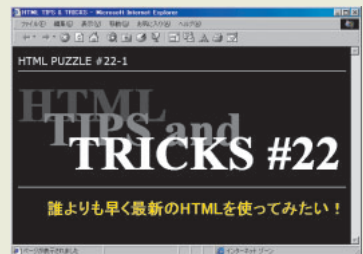
今回は比較的簡単だったせいか、応募者全員が正解だった。テクニカルな部分の多い今までのパズルと比べると、今回のパズルはとつきやすかったのかもしれない。それでは解答を発表しよう。
(第1問はナビゲーター4でも使えるものでした。お詫びして訂正させていただきます。)



ANSWER ① 文字を重ねろ!

1行の高さを指定するline-heightを使えばよい。これをフォントの大きさより小さくすれば、あとは文字を配置していくだけで文字を重ねられる。

```
<DIV STYLE="font-family:Times New Roman;font-size:72pt;font-weight:900;
line-height:36pt;">
<DIV STYLE="color:#404040;">HTML</DIV>
<DIV STYLE="color:#808080;text-indent:50px;">TIPS and</DIV>
<DIV STYLE="color:#ffffff;text-indent:100px;">TRICKS #22</DIV>
</DIV>
```



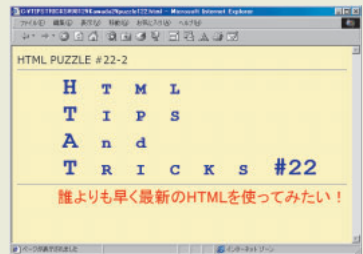
正解者:熊本芳朗、米澤慎一郎、いのうえ、石橋達也、良知敬介、田中和也、川瀬達矢、藤島英史、倉賀野修、田中博英(敬称略)



ANSWER ② 間隔を開けて文字を配置しろ!

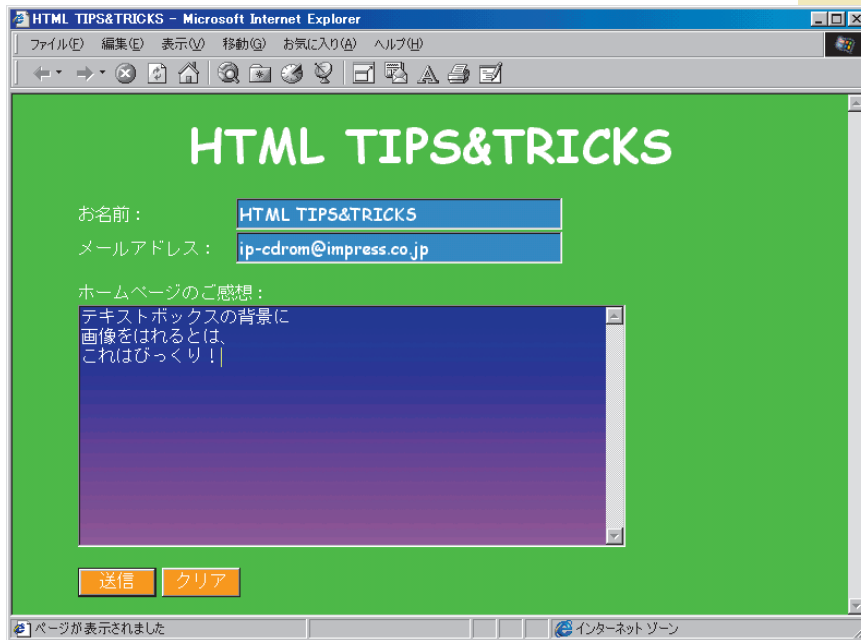
文字と文字の間隔を指定するletter-spacingを使えばよい。ちなみに数値はマイナスの値でも指定できるので、文字の間隔をせまくすることもできる。またletter-spacingにnormalを指定すると間隔を元に戻せる。

```
<DIV STYLE="position:absolute;left:100;color:blue;font-weight:900;
font-size:24pt;font-family:'Courier New';letter-spacing:36pt;">
<SPAN STYLE="font-size:36pt;">H</SPAN>T</SPAN>M</SPAN>L</SPAN><BR>
<SPAN STYLE="font-size:36pt;">T</SPAN></SPAN>I</SPAN>P</SPAN>S</SPAN><BR>
<SPAN STYLE="font-size:36pt;">A</SPAN></SPAN>N</SPAN>D</SPAN><BR>
<SPAN STYLE="font-size:36pt;">T</SPAN></SPAN>R</SPAN>I</SPAN>C</SPAN>K</SPAN>S</SPAN> #22</SPAN>
</DIV>
```



正解者:熊本芳朗、米澤慎一郎、いのうえ、石橋達也、良知敬介、田中和也、川瀬達矢、倉賀野修、田中博英(敬称略)

フォームをデザインする



今までのフォームのテキストボックスでは、背景が白でテキストが黒という何の変哲もないデザインしか使用できなかった。ホームページのデザインに凝っている人には悩みの種だったに違いない。ところが IE 4からはフォームの部品にスタイルを設定できるようになった。そこで今回は、スタイルシートを使用してちょっと変わったデザインのフォームを作成するTIPSを紹介しよう。投稿者を楽しませる仕掛けを作って、訪れてくれるゲストを引き付けることもホームページ作りでは大切な要素の1つだ。ホームページで投稿フォームなどを作っている人は、ぜひこうしたスタイルを設定してほしい。



- 1


```
<STYLE TYPE="text/css">
.fs { color:white; font: 12pt 'MS ゴシック' }
.ipt { background-color: dodgerblue; color: white; font: 12pt 'Comic Sans MS' }
</STYLE>
```
- 2


```
<INPUT TYPE="text" CLASS="ipt">
<TEXTAREA CLASS="fs" STYLE="background-image: url (gra.gif)">
<INPUT TYPE="submit" CLASS="fs" STYLE="background-color: orange">
```

Point

まず上の画面を見てほしい。普通のフォームとはデザインがかなり違い、テキストボックスやボタンの背景に色や画像が付いていて、文字が白色になっていることに気付くだろう。これは、1行テキストボックス、テキストエリア、ボタンの各部品にスタイルシートを使用しているためだ。スタイルの設定は一般的なスタイルシートの指定方法と同じで、CLASS属性やSTYLE属性を利用できる。ここでは両方の属性を使って、<HEAD> ~ </HEAD>間で指定したスタイル設定を呼び出したり、部品にワンポイントのスタイルを指定したりしている。

①のSTYLEタグでの指定では、クラス名「fs」の文字色をwhiteに、フォントを12ポイントのMSゴシックに指定している。また、クラス名「ipt」の背景色をdodgerblueに、文字色をwhiteに、フォントを12ポイントのComic Sans MSに指定してい

る。フォントの種類によっては、名前の中にスペースが入っているものがあるので、その場合はフォント名をシングルクォート('')で囲み、ブラウザがきちんと認識できるようにしよう。

ここでは、「font」というフォントの属性を一括して指定できるスタイルシートのプロパティを使っている。このfontでは、以下のプロパティの値をまとめて指定できるので、記述を省略したい人は使ってみてほしい。

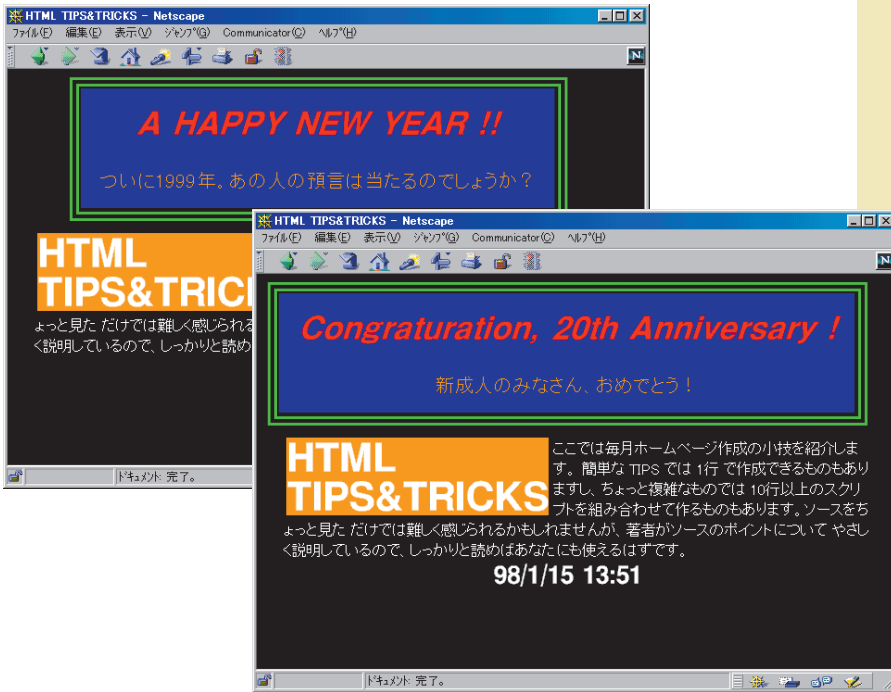
```
font-style font-variant font-weight
font-size/line-height font-family
```

なお、指定する順序は基本的に上に示したとおりで、省略したプロパティには初期値が適用されることに注意しよう。

②では、各部品にCLASS属性を付けて①で設定したスタイルを呼び出している。テキストエリア(<TEXTAREA>)とボタン(<INPUT TYPE="submit">)では、STYLE属性も指定して背景に画像や色を指定している。テキストエリアの背景はグラデーションになっているが、これは縦に細長い画像を並べたものだ。

これでオリジナルデザインのフォームは完成だ。このコーナーの読者なら、スタイルシートはすでにおなじみになっているはずだ。自分のホームページで応用して訪問者を楽しませてみよう。

■ 記念日にメッセージを表示させる



```
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
var msg = new Array ();
msg[0] = 'A HAPPY NEW YEAR !!';
msg[1] = 'Congraturation, 20th.....!';
var month = new Array ();
month[0] = 1; month[1] = 1;
var day = new Array ();
day[0] = 1; day[1] = 15;
```

```
var date = new Date ();
var m = date.getMonth () + 1;
var d = date.getDate ();
for (i = 0; i < 2; i++) {
  if (m == month [i] && d == day [i]) {
    document.write(msg[i]);
  }
}
</SCRIPT>
```

POINT

このTIPSは、JavaScriptを使用して、指定日になるとあらかじめ用意しておいたメッセージを表示させるものだ。スクリプト自体はそれほど複雑ではないので、よく読んで使ってみてほしい。このスクリプトは必ず<BODY>> ~ </BODY>>の間に記述しなければいけない。そうしないとブラウザがメッセージを表示する位置を判断できなくなってしまう。注意しよう。

まず、メッセージ(msg)、月(month)、日(day)の配列をそれぞれ作る。配列を使う場合は、配列オブジェクトArrayを宣言することを覚えておこう。「msg[数字]」の右にあるシングルクォート('')で囲まれた文字列が表示するメッセージになり、「month[数字]」と「day[数字]」の右がそれぞれメッセージを表示する月と日になる。ここではメッセージと月日は2つずつだが、その数はいくらでも

増やしてよい。

次に、Dateオブジェクトを使って現在の日付を取得する。日時に関する処理を行うときは必ずDateを使うことを覚えておこう。ここでは、Dateオブジェクトを変数dateとして扱い、getMonthメソッドで取得した月とgetDateメソッドで取得した日を、それぞれ変数mと変数dに入れている。注意しなければならないのは、getMonthで得られる月は0から始まるということだ。つまり、1月なら0に、10月なら9になる。そのため、ここではgetMonthに1を加えたものを変数mに入れている。

最後に、得られた現在の月日によって表示するメッセージを変える処理を行う。ここではforループを使って()内の処理を2度行い、if文の条件が一致したときにdocument.write()が実行されてメッセ

ージが表示される。month[i]、day[i]、msg[i]には、先に指定した配列番号の要素が入っている。

ちなみに、このwrite()にはタグやスタイルシートを含んだ文字列を指定することもできる。write()にタグなどを指定するときは、シングルクォート('')で囲むようにしよう。

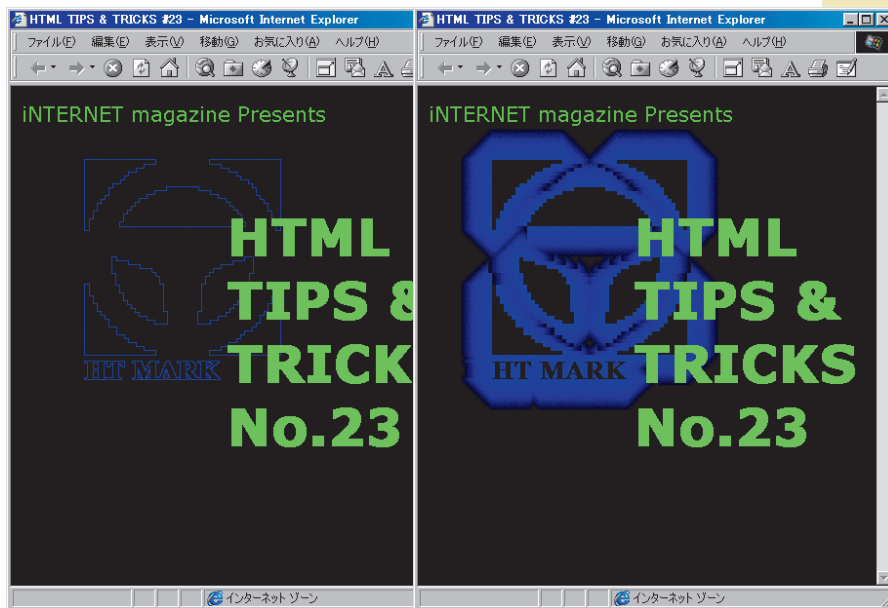
```
document.write('<B>' + msg[i] + '</B>');
```

今回紹介したJavaScriptはナビゲーター、IEともにバージョン3でも動作するので、互換性を気にせずに使える。今まで互換性が気になって最新のTIPSの使用を控えていた人は、このスクリプトをぜひ使ってもらいたい。



日本人は記念日が好きだ。読者も何かの記念日を設定して楽しんでるのではないだろうか？ そんな人にぴったりのTIPSがこれだ。JavaScriptでパソコンの時計を参照して、指定日になったらメッセージを表示させるページだ。元旦や成人の日になると、「A HAPPY NEW YEAR」などその日にふさわしいあいさつがページの冒頭に現れる。スクリプト自体は最新のテクニックを使っていないので、バージョンが古いブラウザでも動作する。互換性を気にせず気軽に使えるスクリプトだ。これからはクリスマスやお正月、成人式やバレンタインデーなどの記念日が目白押しなので、ぜひ使ってみてほしい。

発光アニメーションを作る



この連載でさまざまな形で取り上げてきたインターネットエクスプローラ4.0のビジュアルフィルター。ビジュアルフィルターだけで影や光、波型など画像処理ソフトを使わなければならないような効果を手軽に加えることができる。ところで、フィルターのパラメータはスクリプトから参照したり操作したりできることをご存じだろうか？ フィルターとJavaScriptを連携させれば、フィルターだけではできない特殊な効果を作り出せる。今回取り上げるのは、GlowフィルターとJavaScriptの連携で画像や文字の輝きをダイナミックに変える発光アニメーションだ。それでは、さっそくご覧いただく。



1

```
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
step = 1; count = 1;
function radiation () {
  if (count > 4 || count < 1) step *= -1;
  count += step;
  SAMPLE.filters ["Glow"].Strength = count * 4;
}
</SCRIPT>
```

2

```
<BODY onLoad="setInterval ('radiation()',250);">
```

3

```
<DIV ID="SAMPLE"
STYLE="position: absolute; top: 25; left: 25;
color: #000000; padding: 50;
Filter: Glow (Color:#0000ff,Strength=0);">
<IMG SRC="htmark.gif"
STYLE="Filter: Mask (Color:#000000);
width=200 height=200"><BR>HT MARK
</DIV>
```

POINT

ここで使われているGlowフィルターは、画像や文字の縁の外側に発光させ、浮き出ているような効果を出すことができるものだ。このフィルターのパラメータは、発光の色を指定するColorと発光の強さを指定するStrengthの2つだ。Strengthの値を一定時間ごとに変えていくことで、あたかもピカピカと不気味に輝くアニメーションを作り出すことができるのだ。

発光の強さStrengthは、スクリプトの中で次の式を使って設定できる。

```
オブジェクト名.filters ["Glow"].Strength
= 数値;
```

これを使って数値を段階的に変えていけばよい(ソース①)。サンプルでは、Strengthを0、4、8、12、16、

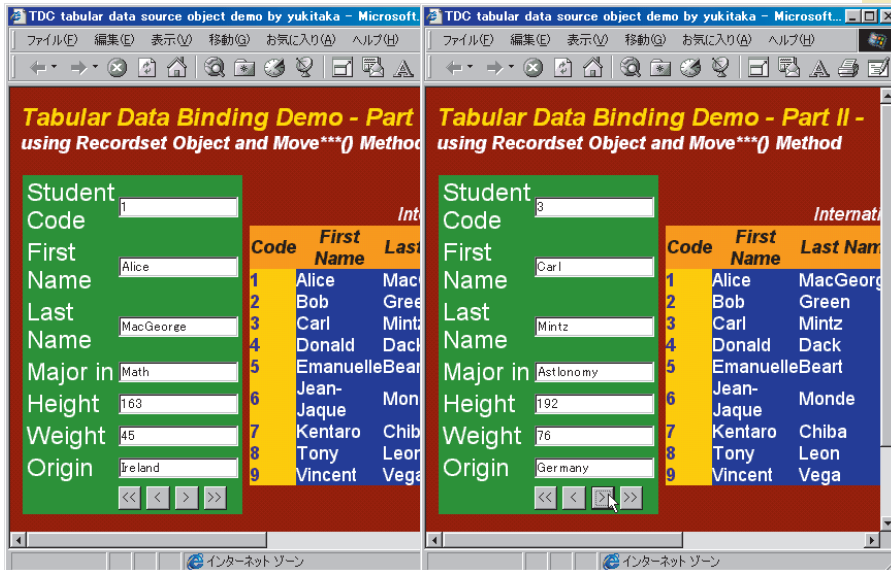
20の6段階用意している。数値は0から100までの範囲で指定したほうがよいだろう。100が最大の強さとなる。BODYタグで「onLoad="setInterval ('radiation()',250);"」としてソース②のStrengthを変える関数radiationを一定時間ごとに呼び出し、Strengthを増減させている。発光させる対象のオブジェクトに対してフィルターをかけるとき、そのままだとサイズに合わせて発光している部分が切り取られてしまうことがある。そこで、オブジェクトにスタイルシートのpaddingを設定して余白を空けるようにした(ソース③)。発光の強さを大きくする場合は、それに合わせて余白を大きめに取ったほうがよいだろう。

ここで特殊効果に関するアドバイス。文字列を発光アニメーションさせる場合、文字の色を背景色と同じ色にするとよい。画像の場合は、一度背景

色と同じ色のMaskフィルターをかけたものにGlowフィルターをかけると、より効果を高めることができるだろう。

ここで取り上げた発光アニメーションのほかにも、フィルターとJavaScriptの連携によって強力な特殊効果を引き出すことができる。パラメータをいろいろと変化させてみよう。思わぬ効果を見つかることができるかもしれない。次回のTIPSでは、Alphaフィルターを使ったフェードイン・アウト処理を取り上げることにしよう。

データバインディング機能でデータベースを利用 その2



今回は簡単なデータソースオブジェクトTDC(TabularDataControl)を使用して、HTMLのテーブルにCSVファイルのデータを表示させる方法を紹介した。今回は、INPUTタグで作ったテキストボックスに、データベースのレコードを1つ表示し、なおかつスクリプトを使って次々とダイナミックに別のレコードを呼び出していくようなデータベースらしい使い方に挑戦してみる。左のサンプルでは、7つのテキストボックスに生徒のデータが表示され、ボタンを押すと、次や前の生徒のものに切り替わったり先頭や最後のものにジャンプしたりする。前回紹介したTDCの使い方を思い出しながら試してみよう。



1

```
<OBJECT ID="tdcStudent" WIDTH=0 HEIGHT=0
CLASSID="{333C7BC4-460F-11D0-BC04-0080C7055A83}"
<PARAM NAME="FieldDelim" VALUE=",">
<PARAM NAME="DataURL" VALUE="recordset.csv">
<PARAM NAME="TextQualifier" VALUE="'">
<PARAM NAME="UseHeader" VALUE="true">
</OBJECT>
```

2

```
<INPUT TYPE=TEXT DATASRC=#tdcStudent DATAFLD=code>
<INPUT TYPE=TEXT DATASRC=#tdcStudent DATAFLD=first>
<INPUT TYPE=TEXT DATASRC=#tdcStudent DATAFLD=last>
:
```

3

```
<INPUT TYPE=BUTTON VALUE="<<"
onClick="tdcStudent.recordset.MoveFirst()">
<INPUT TYPE=BUTTON VALUE="<"
onClick="tdcStudent.recordset.MovePrevious();
if (tdcStudent.recordset.BOF)
tdcStudent.recordset.MoveFirst();">
<INPUT TYPE=BUTTON VALUE=">"
onClick="tdcStudent.recordset.MoveNext();
if (tdcStudent.recordset.EOF)
tdcStudent.recordset.MoveLast();">
<INPUT TYPE=BUTTON VALUE=">>"
onClick="tdcStudent.recordset.MoveLast();">
```

POINT

まずサンプルを見てみよう。ページの右側の表は前回と同じく、OBJECTタグでTDCのデータソース(ここではtdcStudent)を作成し(ソース①)、TABLEタグに結び付けたものだ。左側のテキストボックスにも同じデータソースを結び付けているが、テーブル型ではなくシングルバリュー型のINPUTタグを使っているため、データベースのレコードが1つ(生徒1人分ずつ)表示されている。シングルバリュー型でも、データを結び付ける方法はテーブル型と同じだ。DATASRC属性でデータソースの名前(tdcStudent)を設定し、DATAFLD属性で結び付けるフィールド名(codeなど)を指定する(ソース②)。今回7つのフィールドを持つデータベースファイルを使っているため、7つのINPUTタグを作っておこう。結び付けが成功した最初の状態だと、データベースの1番目のレコードが表示されている。次に、レ

コードを移動して別の生徒の情報を表示できるようにしよう。

Visual Basicなどでデータベースアプリケーションを作ったことのある人はご存じだろう。通常、データオブジェクトはその下にレコードセットと呼ばれるオブジェクトを持っている(tdcStudent.recordset)。そしてそのレコードセットオブジェクトでは、レコードを移動するための4つの基本的なメソッド(MoveFirst、MovePrevious、MoveNext、MoveLast)が提供されている。これらの各メソッドをボタンのonClickイベントに関連付けて、ボタンを押すとINPUTタグに表示されるレコードが変わるようにした(ソース③)。ここで注意するのは、先頭のレコードを表示しているときに、さらにMovePreviousメソッドを実行すると問題があるので、次のようにMoveFirstメソッドを使うことだ。

```
if (tdcStudent.recordset.BOF)
tdcStudent.recordset.MoveFirst();
```

BOFは先頭のレコードを使っていることを表すプロパティだ。最終レコードのときも同じように、EOFプロパティをチェックしてMoveLastメソッドを使用しよう。

以上のように簡単なスクリプトでデータベースを参照するページができる。これを応用して、ある条件に合致するまでMoveNextを繰り返すようなスクリプトを書けば検索サイトも作れることになる。きみもウェブデータベースプログラミングに挑戦だ!

HTMLパズルに挑戦しよう

隠されたトリックを解き明かせ!



今月のテーマ

・フォントのサイズ変更を制する……

ホームページを見ているときに、文字の大きさが小さすぎて読みにくい場合があるだろう。そんなとき、フォントのサイズを自由に換えられたらとても助かる。サイズを大きくしたページを別に用意する方法もあるが、それよりはページの更新なしで大きさを段階的に変えられるほうがいいだろう。そこで今月は、フォントのサイズをダイナミックに変更するパズルに挑戦していただく。トリックがわかったらすぐに解答を送ってほしい。正解者には抽選で1名にオリジナル折りたたみ傘をプレゼントさせていただく。なお、正解は来月のこのコーナーで発表する。それでは頭をやわらかくして、今月のテーマ“フォントのサイズ変更を制する”にチャレンジ!

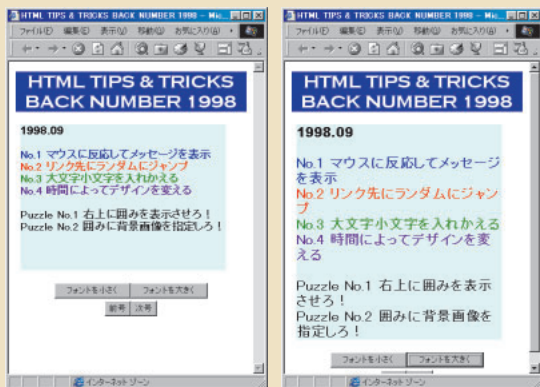
「HTMLパズルに挑戦しよう」宛先

正解がわかった人も、わからなかった人も、ご意見、ご感想など何でもOK、次の宛先にメールしよう。用件の欄には必ず
HTML TIPS & TRICKS
の1行を忘れずに。あなたの挑戦を待つ!

✉ ip-cdrom@impress.co.jp

なお、締め切りは12月7日とさせていただきます。

QUESTION 1 フォントのサイズを変更せよ!

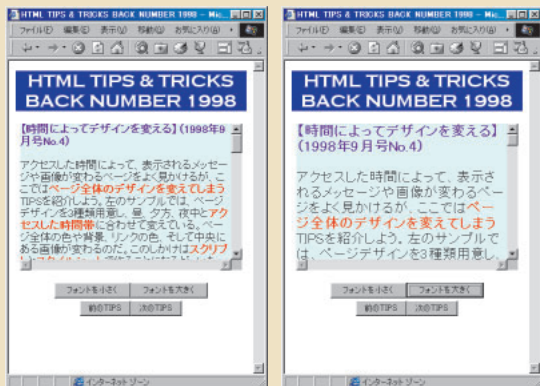


まずは左にあるサンプルを見ていただく。このサンプルでは、中央の背景が水色の部分のフォントサイズを変えることができる。「フォントを小さく」と「フォントを大きく」の2つのボタンがあり、ボタンをそれぞれ押して、サイズを段階的に変えられる。しかもサイズを変えるためにページを移動する必要はないのだ。第1問では、このサンプルのようにフォントのサイズを動的に変える方法を考えていただきたい。なお、エラーが出ることを防ぐために、変更できるサイズの範囲をある程度限定すること。また、フォントの種類や色などはサイズを変更しても影響を受けないようにすること。さあ、やってみよう。



スタイルシートに対応するJavaScriptのプロパティは……

QUESTION 2 表示部分にスクロールバーを付ける!



フォントサイズを動的に変えると、ちょっとした問題が起きる。スタイルシートのheightで高さを指定した場合、フォントを大きくしたときにheightの高さを超えると、超えた部分があふれて表示されてしまうことだ。これではレイアウトを崩してしまうことになる。そこで、フォントを大きくした場合でもあふれずにheightで指定した高さのまま表示させるようにしたい。第2問では、そのための方法の1つとして、左のサンプルのようにスクロールバーを付ける方法を考えていただきたい。ただし、フレームを組み合わせる方法は使わないこと。複雑なことをしなくてもスクロールバーを付けることはそれほど難しいことではない。



「あふれる」を指定するスタイルシートは……



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp